



ひらさわ のりやす
平澤 典保 教授

～ 生活習慣病治療薬学分野 ～

講義題目

医・薬の橋渡し

【略 歴】

1982年 3月 東北大学薬学部製薬化学科卒業	2014年 4月 東北大学大学院薬学研究科副研究科長 (併任～2021年3月)
1984年 3月 東北大学大学院薬学研究科 博士課程前期2年の課程修了	2014年 4月 東北大学薬学部副学部長 (併任～2021年3月)
1985年 4月 東北大学薬学部助手	2017年 4月 東北大学大学院薬学研究科医療薬学専攻長 (併任～2019年3月)
1989年 6月 東北大学大学院薬学研究科博士号(薬学)取得	2019年 4月 東北大学大学院薬学研究科医療薬学専攻長 (併任～2025年3月)
1996年 4月 東北大学薬学部講師	2019年 4月 東北大学大学院薬学研究科附属医薬品開発研究センター長 (併任～2024年3月)
1998年10月 東北大学薬学部助教授	2025年 3月 退職
2007年 4月 東北大学大学院薬学研究科准教授	
2008年 7月 東北大学大学院薬学研究科教授	
2010年 5月 東北大学大学院医学系研究科教授 (協力教員)	

【研究業績等の紹介】

平澤典保教授は、アレルギー炎症の病態解析と新しい機序を持つ抗アレルギー薬の開発に取り組んだ。マウスおよびラットの病態モデルにおいて、アレルギー炎症におけるヒスタミンの役割について解析し、それまでマスト細胞から放出されアナフィラキシー反応に関与すると考えられていたヒスタミンが、他の炎症細胞からも産生・放出され、白血球浸潤や血管新生など、急性期・慢性期の多様な炎症応答にも関与していることを明らかにした。また、細胞レベルでは、マスト細胞を中心としたシグナル伝達機構について解析し、ステロイド性抗炎症などの新たな作用機構を明らかにした。さらに、アトピー性皮膚炎の新たな治療薬の開発を目指し、上皮細胞が産生するサイトカインに着目して、その産生制御機構ならびに産生阻害薬の探索研究を推進して、新たな作用機構をもつ抗アレルギー薬候補化合物を提案した。

教育活動においては、文部科学省特別教育研究経費による「高度医療を担う次世代型専門薬剤師養成のための実践的臨床薬学教育システム構築」事業(2008-2012年度)および「スーパージェネラリスト・ファーマシストの養成教育」事業(2013-2022年度)に参画し、6年制薬学教育の開始に

おける新たな薬学教育の基盤の構築ならびに次世代型の薬剤師教育体系の構築に寄与した。薬学研究科および医学系研究科の大学院教育では、「応用医療薬学特論」および「TR 特論2」を担当し、さらに、未来型医療創造卓越大学院プログラムにおいては、未来型医療創造教育研究センター運営委員・教務委員として寄与した。また、治験に関与する医療従事者の社会人教育として、Master of Clinical Sciences (MCS) コースの企画運営に寄与した(2011年度～2022年度)。2019年度～2023年度には「社会薬学マネジメント寄附講座」の教授を兼任し、地域医療における薬局・薬剤師の社会的課題ならびに生活習慣病に対する患者・生活者の行動変容を導く上での課題解析を行った。

さらに、レギュラトリーサイエンス教育および産官学連携による創薬の組織的な推進にも寄与した。国立医薬品食品衛生研究所と薬学研究科との連携大学院として医薬品評価学講座(2014年～現在継続中)の設立に貢献した。また、2019年から2024年にかけて、薬学研究科附属医薬品開発研究センター長を併任して、産学連携、部局間連携による創薬研究の基盤構築に取り組んだ。さらに、未来型医療創成センターにおいて、遺伝子創薬グループのグループ長としても関与した。